

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和4年	会計コード	10	一般	事業コード	38557	
事業名	飲食店の未来応援費						
評価担当課	所属名	経産産業振興部 商業・経営支援					
	課長名	西村	担当者名	西出	電話番号	011-211-2372	
施策名	主	—					
	副						
アクションプラン	○ 対象 ● 対象外		戦略ビジョン	○ 対象 ● 対象外			
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費						
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理						
事業内容	実施形態	○ 直営 ○ 一部委託 ● 全部委託 ○ 補助助成 ○ その他					
	目的	短期	新型コロナウイルス感染症の感染拡大の長期化に伴い、経営上大きな影響を受けた市内飲食店の売上回復や早期の資金繰りの改善につなげる。				
		長期	需要喚起を図り、市内飲食店の中長期的な事業継続のための一助とする。				
	取組内容	購入型クラウドファンディングを活用し、市内飲食店で利用できる前売りのプレミアム付き食事券を発行する。また、クラウドファンディング手数料やプレミアム分を札幌市が負担する。					
	実施結果	市内飲食店を支援するためのクラウドファンディングを、年度内に2回実施し、延べ20,418人から698,512千円の支援を集めるとともに、プレミアム分として209,554千円をプラスした合計908,066千円を参加飲食店(延べ2,857軒)に支援した。					
事業実施における工夫点	令和3年度に引き続き、支援対象の拡大を継続し、イラストを活用した店舗募集チラシの発行を行ったほか、新型コロナウイルス感染拡大時の対応(使用制限等)について、事前に飲食店や支援者に周知徹底し、トラブルの発生を予防する取組を行った。						
対象者	市内飲食店、市民			開始	令和2年度	終了	令和4年度
関連法令・条例・要綱等	なし						
他都市の状況	なし						

◎事業費

(単位:千円)

	令和3年度決算	令和4年度予算	令和4年度決算	令和5年度予算
事業費	199,079	320,000	319,179	0
うち特定財源	199,079	0	319,179	0
人工	0.2	0.2	0.2	0.0
人件費	1,440	1,440	1,440	0
計(事業費+人件費)	200,519	321,440	320,619	0
事業費	令和4年度決算	決算額:319,179千円 <内訳> 委託費(広告宣伝費等の事務費):39,600千円 負担金(プレミアム分、クラウドファンディング手数料):279,554千円 事務費(委員報酬):25千円 ※当初一般財源で予算化するも、令和4年4定補正で財源振替。		
の内訳	令和5年度予算	なし		

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	集めた資金の総額					
	令和3年度実績	令和4年度予定	令和4年度実績	令和5年度予定			
	447,853千円	700,000千円	698,512千円	—			
活動指標2	指標名						
	令和3年度実績	令和4年度予定	令和4年度実績	令和5年度予定			
成果指標1	指標名	参加飲食店の売上を網羅的に把握することが困難なため無し					
	令和3年度実績	令和4年度目標	令和4年度実績	令和5年度目標			
成果指標2	指標名						
	令和3年度実績	令和4年度目標	令和4年度実績	令和5年度目標			
項目	判定	理由					
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	延べ2, 857軒の飲食店が参加し、延べ20, 418人から698, 512千円の支援を集めることができ、概ね目標とした資金を集めることができた。 また、一般的な商品券事業と異なり、利用前に集まった支援額を先に店舗に送金するスキームとした結果、事業目的である市内飲食店の早期の資金繰りの改善に貢献する取組となったと考えている。					
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	事務局を設置し、飲食店の参加登録から市民等による支援までを円滑に実施することができた。 また、一般的な商品券事業と異なり、販売所の設置が不要であり、クラウドファンディング手数料及び広告宣伝費等の必要最低限の事務費により事業を実施し、概ね目標とした資金を集めることができたことから、適切な事業規模であったと考えている。					
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	購入型クラウドファンディングを活用した前売り食事券の販売は、販売窓口の設置を要せず、感染拡大防止と両立した事業者支援策として合理的である。 また、一般的な商品券事業と異なり、利用前に集まった支援額を先に店舗に送金するスキームとすることで、事業目的である市内飲食店の売上回復・資金繰りの改善を早期に実現できたことから、適切な事業手法であったと考えている。					
対象者の満足度 (対象者のニーズにしているか)	A	参加した飲食店及び支援者の数は、過去2年の事業と比較しても最多となり、事業の対象者である市内飲食店及び市民のニーズに応えられた事業であったと評価する。					
市民参加の実施	☒ 企画 ☒ 実施 ☐ 評価 ☐ 対象外		市民参加結果への対応	☒ 回答 ☐ 反映			
今後の改善点	支援が集まらなかった店舗の数が増加傾向(R2:49店舗、R3:57店舗、R4:延べ302店舗)であり、幅広い飲食店に支援を行き渡らせるための手法や事業規模が課題となった。 また、引き続き、クラウドファンディングにハードルを感じる飲食店もいることから、今後同種の事業を実施することとなった場合は、店舗募集の際に、登録作業のフォローを行う必要がある。						
前回の評価	☒ A ☐ B ☐ C ☐ 評価省略対象事業・前年度実施なし						
今年度取り組んだ見直し内容	店舗登録代行などのフォローを引き続き行うとともに、多様なメディアを活用した広告のほか、支援状況の芳しくない店舗についてSNSを活用して積極的に周知を行った。		見直し効果額 (前年度)	0	千円		
今回の評価	☒ A ☐ B ☐ C ☐ 評価省略対象事業・前年度実施なし						
評価の理由	R3年度に引き続き、概ね目標とした支援金を集めることができ、事業目的である市内飲食店の売上回復・資金繰りの改善を早期に実現できたため。						
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	☐ 改善 ☐ 現状維持 ☒ 休止・廃止					
		R4年度廃止事業のため無し。					
	予算	☐ 拡充 ☐ 現状維持 ☒ 縮小 ☐ その他		見直し効果額	0千円		
		R4年度廃止事業のため無し。					